

平成29年度 長崎県立川棚特別支援学校 学校評価（総括）

校 訓 「 明 朗 」・「 協 力 」・「 自 立 」

学校教育目標

児童生徒のニーズに基づき、一人一人を大切にしたい指導を推進し、自立して積極的に社会参加する心身ともにすこやかでたくましい人間の育成を図る

重点目標

- 1 一人一人を大切に、児童生徒の社会参加と自立を目指す
- 2 児童生徒が安全に安心して生き生きと学ぶことができる学校づくり
- 3 特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究、研修の充実
- 4 地域における特別支援教育の充実と発展及び信頼される学校づくり

本年度の努力目標 （重点目標を達成するための取組）

- 1－① 児童生徒の命や人権を大切にする指導に努め、いじめや体罰のない学校を目指す
 - ② 一人一人の障害の特性を理解し、障害特性に応じた指導及び支援に努める
 - ③ 発達段階や生活年齢及び卒業後の社会参加を見据えたキャリア教育を推進する
 - ④ 児童生徒の豊かな心情を育て、自分を表現できる教育活動の充実に努める
- 2－⑤ 健康安全と食育に関する指導を充実し、児童生徒の心身の健康を図る
 - ⑥ 合理的配慮や安全に留意した教育環境の整備に努める
 - ⑦ 危機管理意識を高くもち、緊急時対応への体制整備や事故防止に努める
 - ⑧ 保護者の信頼にこたえる学校事務運営や学校施設の計画的な整備に努める
- 3－⑨ 小学部・中学部・高等部の系統性に配慮し、キャリア発達を支援する教育課程の編成に努める
 - ⑩ 障害の特性に応じた自立活動等の指導内容、指導方法の工夫、充実に努める
 - ⑪ 外部講師や専門家を招へいし、校内研修の充実に努め、専門性を高めるとともに、授業力の向上を図る
- 4－⑫ 地域の関係機関や特別支援教育連絡協議会などと連携を図り、地域に根ざした支援に努める
 - ⑬ 近隣の学校や地域との交流及び共同学習や居住地校交流を推進する
 - ⑭ 地域の人材を活用した教育活動や学校行事を工夫、積極的な情報発信等を通して、地域に関わられた学校づくりに努める

1 評価方法、評価分野と評価尺度

- | | | | | |
|---|--------------------|----------------|---------|------|
| ① 自己評価 | 本校職員 | 12月20日 | 39名／39名 | 100% |
| ② 学校評価アンケート | 保護者 | 12月20日 | 38名／38名 | 100% |
| | 施設職員 | 12月20日 | 14名／14名 | 100% |
| ③ 評価分野（6分野）：「学校経営」「組織運営」「教育活動」「教育環境」「開かれた学校」「人的教育環境づくり」 | | | | |
| ④ 評価尺度 | 4：十分達成できている | 3：概ね達成している | | |
| | 2：どちらかというと達成できていない | 1：ほとんど達成できていない | | |

2 平成29年度学校評価 自己評価、保護者・施設職員アンケートによる結果と考察

(1)「学校経営」について 自己評価：3.3

- ・高等部開設に伴い校訓をはじめ全体的に見直しを行い経営方針の設定をすることができた。
- ・年度初めに共通理解を図り各部主事を中心に各部目標の具現化に努めた。一貫性と系統性に対する教職員の意識が高まってきており授業内容の精選や指導方法等について各部や指導形態ごとに協議をし実践ができています。今後は新学習指導要領を踏まえた本校の独自性を具体化していく必要がある。

(2)「教育活動」について 自己評価：3.3 保護者評価：3.7 施設評価：3.5

- ・キャリア発達の視点を大切に小学部から高等部のつながる指導を意識した実践が進んできている。今後も継続し、教師間の共通理解のもと協働意識、同僚性を深めてPDCAサイクルを円滑に行いながら学校全体の教育活動の向上を図っていく必要がある。
- ・児童生徒の社会的自立に向けた社会性や人間性、道徳心、勤労観などを体験的な学習を通して育むために段階的、系統的な指導方法の工夫などを行いながら実践を進めていく必要がある。

(3)「組織運営」について 自己評価：3.3

- ・高等部開設に伴い、分掌部の改編を行い進路指導部の新設や各分掌部業務内容の整理をすることができた。
- ・分掌部主任を中心に計画的に立案、実施、反省、改善を進めた。次年度に向けての反省を行い、課題を整理して円滑な組織運営を図りたい。今後は、運営機構における各種委員会の在り方や構成員の整理を進めていく必要がある。
- ・専門性の向上を図るための研修会参加の啓発を行っているが参加希望者が少なかった。これまでの定期的な周知と合わせて管理職等で必要な研修会の精選を行いながら参加を募っていききたい。

(4)「教育環境」について 自己評価：3.3 保護者評価：3.6 施設評価：3.6

- ・校舎改修に伴う教材教具の整理を行ったことで教育環境の改善ができた。年度末に行ったことで管理者間の引継ぎが十分にできず、教材の所在が分からない状態があった。各部ごとに必要な教材を部内管理していくように徹底する必要がある。併せて、教材の共有ができるようなシステムの構築が必要である。
- ・情報機器の整備については、少しずつ整ってきている。今後は使用マニュアルの作成や使用方法についての職員研修等の充実を図りたい。

(5)「開かれた学校」について 自己評価：3.4 保護者評価：3.7 施設評価：3.6

- ・PTA活動については、会長をはじめ、役員を中心に年間事業を計画的に運営することができた。各企画の案内を行っているが参加者の増加には至っていない。活動内容の検討を行い、活動内容の充実、参加者数の増加を図っていききたい。PTA会員としての教職員の参加についても協力を仰いでいきたい。
- ・小学部、中学部、高等部のそれぞれに担当者を中心に作業活動、ボランティア活動、交流学習を行うことができた。新しく進めた活動もあるので、今後活動内容の広報や内容の改善を行い地域とのつながりを一層深めていきたい。
- ・施設開放は内容に応じて対応している。今後も今年度同様に地域への広報や外部との連携などを充実させていきたい。

(6)「人的環境づくり」について 自己評価：3.6

- ・各教職員の意識が高く、児童生徒の障害に応じた適切な指導や人権を尊重した指導を進めている。今後も保護者、施設、地域、関係機関からの信頼を得るよう、また、児童生徒の見本、手本となるような言葉遣いや挨拶などを積極的に行っていききたい。併せて、特別支援学校の教師としての専門性を高め、指導の充実を図りたい。

3 平成29年度の学校評価の結果からの改善策

(1) 学校経営について

- 働き方改革の趣旨を踏まえた校内組織運営を推進するため運営委員会や職員会議、各種委員会の在り方について整理を行い、さらに計画的、効果的な組織運営を目指す。

(2) 教育活動について

- キャリア発達の視点を大切に各段階での指導内容を整理し、系統的教育課程の編成を図る。
- ICT機器のさらなる充実を図り、学習指導への活用を充実させるための教員研修の実施と使用マニュアルの作成に努める。

(3) 専門性の向上について

- 校外研修会等の周知啓発を行い、積極的な参加を促し資質の向上を目指す。

(4) 地域や関係機関との連携について

- 地域の人材や事業所の活用、施設、医療、福祉等との情報交換を充実させ、よりよい指導に努める。

